

◆基本目標に係る評価概要

基本目標 1	子どもを生き育てやすいまちへ
<p>子ども支援拠点数については、子育て中の親の不安や負担を軽減するため、平成30年度に鷲別地区に子育て支援センターを開設し、目標値を達成しました。</p> <p>今後においても、育児相談、子育て講座の開催、子育て情報誌の発行などを実施し、子育て環境の充実に取り組んでまいります。</p> <p>一斉学校公開日の来校者に占める地域住民の割合については、常に基準値を上回り、目標値に近づいたため、進展しました。</p> <p>全国体力運動能力調査（小学生）20mシャトルランのT得点については、平成29年度から目標値を上回っています。令和元年度からは放課後運動教室を開始し、より児童が運動に親しむ場を提供することができ、目標を達成しました。</p> <p>都市公園の遊具健全度については、登別市公園施設長寿命化計画に基づき年次的な整備を図ることにより、基準値から目標値に近づいたため、進展しました。</p> <p>今後においても、異常を確認した場合、迅速に必要な安全対策を講じるとともに、損傷の拡大を防ぐ措置をとることにより、施設の延命化を図ります。</p>	
基本目標 2	安心して老いを迎えることができるまちへ
<p>生活困窮者自立支援法に基づく相談件数については、平成29年度に目標値を下回る件数でしたが、平成30年度より家計の立て直しの相談支援や就労に向けた支援、就労機会の提供等に力を入れることで、相談件数が増え、目標を達成しました。</p> <p>特定健康診査の受診率については、受診勧奨や保健指導の取組により年々受診率が向上し、基準値から目標値に近づいたため、進展しました。</p> <p>救急医療の受入時間については、目標値を達成しました。救急医療体制の確保は必要不可欠であるため、引き続き目標達成に努めてまいります。</p> <p>図書館を利用した市民の割合については、横ばいの状況が続いています。今後においても、図書館が身近になるように、魅力や有用性などの周知や、書籍のデジタル化などを進めていくとともに、読書スペースの確保、蔵書の配置、館内レイアウトの変更など、図書館の利用に繋がる取組を進めていきます。</p>	
基本目標 3	各産業が元気に展開されるまちへ
<p>数値目標である基本計画第3章（観光経済）の市民満足度は、基準値が下回りましたが、着実に達成・進展につなげていることから、ニーズに対応した取組が成果を上げているものと考えています。</p> <p>製造品出荷額等については、平成29年度から目標値を上回り、年々上昇推移し、達成しました。</p> <p>有効求人倍率については、第1期総合戦略の計画期間（平成27年度～令和元年度）において、常に目標値を上回り、平成30年度まで年々上昇推移し、達成しました。</p> <p>乳牛1頭当たりの生産乳量については、基準値とほぼ同程度の推移でしたが、令和元年度で初めて目標値を上回り、達成しました。</p>	

基本目標 4**観光地としての魅力づくり**

数値目標である観光施策の市民満足度は基準値を下回りましたが、K P Iである観光入込客数（年間）は年々上昇推移しています。今後においても、登別観光のイメージや観光客の満足度の低下を招くことなく、地域の特色を活かした魅力ある観光地づくりを進めていく必要があります。

歴史文化施設入館者数については、平成30年度まで減少傾向でしたが、令和元年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、展示会を中止せざるをえない時期もあり、来館客数に影響がでておりましたが、市外からの修学旅行生等により、一定人数が来館したこともあり、昨年度の入館者数を大きく上回りました。しかし、基準値を下回っていることから、取組の強化を図る必要があります。

基本目標 5**移住・定住したいまちへ**

姉妹都市（四五都市を含む）都市間交流人数については、交流事業の実施状況によって年度毎に変動は大きいものの基準値を上回ることが多くありました。令和元年度は、基準値を上回る交流を進めていたものの、台風などの影響により、交流事業の中止や参加人数の減少により、基準値を下回る結果となりました。

国際理解講座への参加者数については、第1期総合戦略の計画期間（平成27年度～令和元年度）において、常に目標値を上回り2倍以上の参加者を募る年もありました。本市は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会において、デンマーク王国のホストタウンに登録されていることなどから、市民がより一層国際理解を深める機会を提供できるよう取り組んでまいります。

移住ワンストップ窓口への相談者数については、常に基準値を上回り、目標値を上回る年もありました。しかし、ちょっと暮らしの体験移住者については、受入施設縮小の影響などもあり、体験移住者数は減少傾向にあります。引き続き首都圏などで開催される移住フェアへの参加や、移住・定住ポータルサイトを活用し、本市の移住としての魅力を積極的にPRしていきます。